



Shimane Wood Style II

島根県農林水産部林業課木材振興室

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地 TEL.0852・22・5168 FAX.0852・26・2144
e-mail ringyo@pref.shimane.lg.jp <http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/>



Shimane Wood Style II

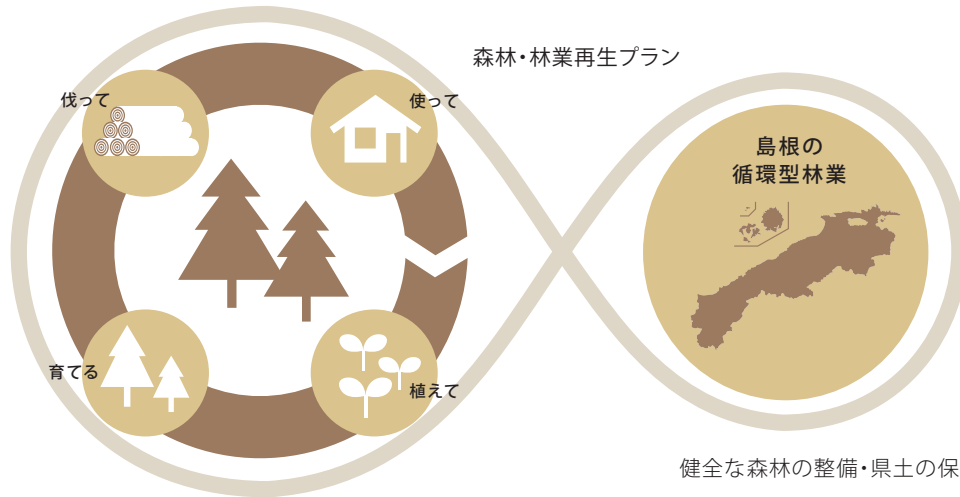
しまね ウッドスタイル II

島根県産木材を使った木造建築物

島根県

しまねの森林資源の持続可能な循環活用をめざして

しまねの森と人と地域 — 活力ある未来を創造



島根県内のスギ・ヒノキ等の森林資源は利用期を迎え、県産の良質な原木を求める声は強くなっています。

木を伐ることから始まる「循環型林業」は、その木を使って、伐採した森林を再び植えて育てる過程で、林業・木材産業の活性化や雇用の創出に加えて、県土の保全・水源かん養・二酸化炭素の吸収等の公益的機能の発揮にも寄与します。

島根県では、平成24年度から、全国で初めて「主伐」による原木生産支援を開始し、「循環型林業」の実現に向けて「伐って・使って・植えて、育てる」総合的な対策を実施しています。

また、平成22年10月に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行され、島根県では平成22年12月に「しまね県産木材の利用促進に関する基本方針」、「島根県木材利用率先計画」を策定して、県産木材の利用促進に取り組んでいます。

そこで、これまでの県産木材を使用した木造住宅に対する助成に加えて、平成23年度からは、住宅以外の民間施設においても木造化・木質化を推進するため、「民間木造建築促進事業」を実施しています。この事業ではモデル的な民間木造施設への建設費助成、設計監理費助成、木造建築に精通した建築士を養成する講習会などを行っています。

この事例集は、「民間木造建築促進事業」により、建築主や建築に関係するみなさまに県産木材を使用した建築物を広く知っていただくために作成しました。「民間木材建築促進事業」で助成した建築物をはじめ、小規模から大規模なものまで、構造材や内装・外装に県産木材利用の工夫が施された建築物を掲載しています。

この事例集が広く活用され、県産木材の利用推進に役立つことを期待しています。

島根県農林水産部林業課木材振興室

健全な森林の整備・県土の保全

- 水源のかん養
- 土砂の流出・崩壊の防止

地域経済の活性化

- 林業・木材産業・建設分野での雇用拡大
- 地場産材利用による地域産業の活性化

地域環境・地球環境の保全

- 森林によるCO₂の吸収
- 木材利用によるCO₂の貯蔵
- 材料製造・輸送時のCO₂排出抑制



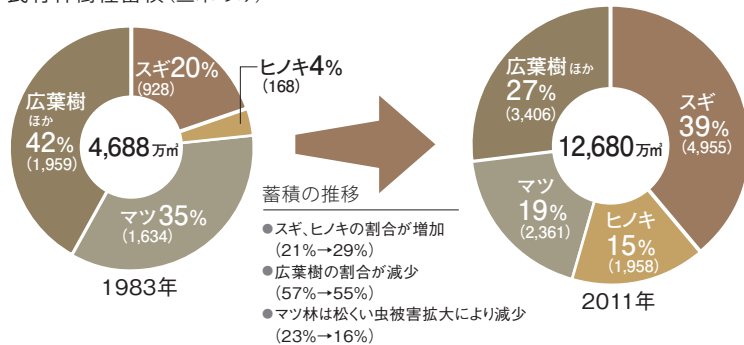
認定マーク

「しまねの木」の認証

「しまねの木」とは、島根県の森林で生産され、島根県で製材・加工された木材製品です。生産から流通、加工に至る関係者が連携し、産地の明確な木材製品を「しまねの木」として認証し、供給しています。

民有林の樹種別蓄積と齢級構成

民有林樹種別蓄積(立木のみ)



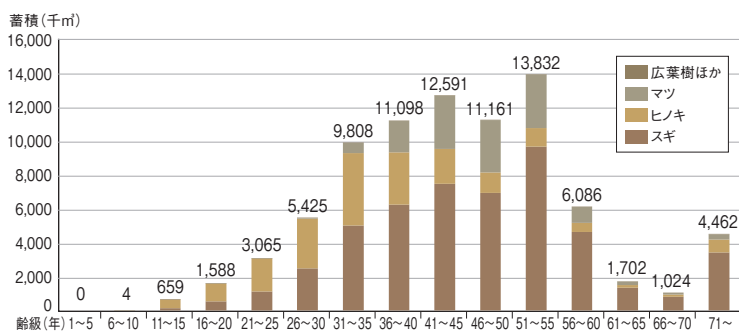
島根県の県土671千haのうち、78%に相当する526千haを森林が占め、島根県の森林率は、高知県、岐阜県に次ぎ全国3位。

島根県の森林の94%(493千ha)が個人や企業、県、市町村などが所有する民有林です。その内、約70%は個人の所有林となっています。

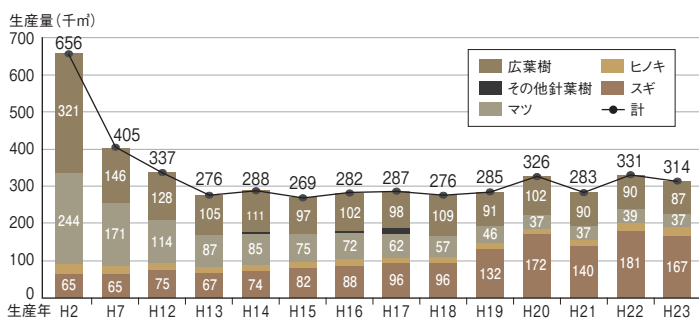
民有林全体の蓄積量は、この30年で倍以上になり、植栽後40年を超える伐採可能な森林が増加し、中でもスギの比率は高くなっています。

ヒノキは、間伐時期を迎える森林が多くなっています。

人工林の齢級構成(蓄積)



樹種別素材生産量



素材生産量は減少が続き、平成2年に比べ半減しましたが、近年は横ばいで推移しています。マツ材が松くい虫被害により減少する一方で、スギ材は近年増加傾向となっています。

木材産業の将来構想

項目	2008年実績	2026年目標	2040年目標 (「森林と木材の長期見通し」)
県内の木材需要量	32.6万m ³	60.0万m ³	80.0万m ³
(内訳)製材用	8.1万m ³	9.0万m ³	9.0万m ³
チップ用	12.5万m ³	15.0万m ³	20.0万m ³
合板用	12.0万m ³	23.0万m ³	30.0万m ³
エネルギー用	—万m ³	13.0万m ³	21.0万m ³

島根県の木材生産量は、近年、30万m³で推移していますが、これを概ね15年後には木材需要量をその約2倍の60万m³に増やす目標を設定しています。

INDEX 島根県産木材を使った木造建築物の事例

ECO・カーステーションK……………5・6
 社会福祉法人 平田保育会 中部保育所……………7・8
 隠岐広域連合立 隠岐病院……………9・10
 高齢者福祉施設 あんのんの里 川跡……………11
 横田幼稚園……………12

ワークくわの木 江津事業所/森のレストラン……………13
 江津地域交流施設 [旧江津郵便局]……………14
 室山農園研修棟 むろやま忠庵……………15
 株式会社 あいわ……………15
 県産木材と木材製品の供給事業者……………16・17・18

〈制作協力〉
 しまね木造塾(一般社団法人島根県建築士会内)
 島根県松江市北田町35-3建築会館内 0852-24-2620

なぜ、いま木の建築なのか

木造、木材利用推進の流れの中で

東京大学名誉教授

農学博士 有馬 孝禮

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(2010年5月成立)が、2010年10月より施行されている。その中で「(目的)第一条 この法律は、木材の利用を促進することが地球温暖化の防止、循環型社会の形成、森林の有する国土の保全、水源のかん養その他の多面的機能の発揮及び山村その他の地域の経済の活性化に貢献すること等にかんがみ、公共建築物等における木材の利用を促進するため、農林水産大臣及び国土交通大臣が策定する基本方針等について定めるとともに、公共建築物の整備の用に供する木材の適切な供給の確保に関する措置を講ずること等により、木材の適切な供給及び利用の確保を通じた林業の持続的かつ健全な発展を図り、もって森林の適正な整備及び木材の自給率の向上に寄与することを目的とする。」となっている。

これを受け各地で公共建築物や構築物にスギ等の国産材の積極的な利用を進めようという動きが生じている。例えば地元産スギを用いた教育・保育施設、地域施設などの具体例が多くみられるようになってきた。しかしながらそれを実現させるには関係する多くの人々それぞれがもっている常識や

思いこみを変えるための努力が必要である。むしろそれに費やす説明、説得などの努力・エネルギーの方が大きかったといっても良い。たとえば「木ではできない」、そしてその対岸にあるのが「ただ木を使え」である。このyesまたはno、あるいは1と0二者択一的な扱いは最近の世相を反映しているようだが、技術の進展を理解していない、あるいはそれに背を向けているといっても良い。木材利用の展開にはまず既存の常識をおき、各専門分野の技術を活かすための協調とか相互理解が必要である。

ここ数年のわが国の経済状況を包む閉塞感の中で、この「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に対する期待と懐疑ともいえる反応の中に「公共建築物」への受け取り方がある。それはかつての公共事業のイメージに密着した「予算が付く」である。それは本法律の趣旨する役割を誤っている。あくまでもこれは「木材の利用の促進」が主役である。たとえば「スギで大中規模木造建築物はできない」などで陥りやすいものは単純に経費だけの比較である。公共建築物は波及効果が極めて大きい。ましてや地域の木材利用、あるいは国産材といったときには資金の循環はもとより、人々の



技術向上、森林資源の更新など地域活性化の原点に関わるものが多い。公共に資する建築物が率先して木材利用を展開するための新たな仕組み、すなわち公共の福祉、環境をより推進するために木材の役割を高め、併せて波及効果を期待している。端的な表現をするならば「使おうと思うことが可能性を広げる」、「管理(供給)者発想から使用(需給)者発想へ」とでもいえるものと考えられる。

ここ本書に示された事例はいろいろなやり取りの中で生まれたものである。もちろん課題も残されていると思われるが、それぞれ次のステップに活かされるはずである。更なる次を期待したい。

profile

有馬 孝禮 ありま たかのり
東京大学名誉教授・農学博士

1942年、鹿児島県出身。東京大学農学部林産学科卒業(1965)、東京大学大学院農学系研究科林産学修士課程終了(1967)、東京大学農学部文部教官助手(1967～)、建設省建築研究所建設技官研究員(1974～)、オーストラリア連邦科学産業研究機構客員研究員(1976～77)、静岡大学農学部林産学科助教授(1981)、東京大学農学部林産学科助教授(1987)、東京大学大学院農学生命科学研究科教授(1996～2003)、宮崎県木材利用技術センター2代目所長(2003～2011)。

●著書

「なぜ、いま木の建築なのか」(学芸出版)、「木材の住科学」(東京大学出版会)、「木材の物理」「木材の工学」(共著・文永堂)、「循環型社会と木材」(全日本建築士会)、「木質構造」(共著・海青社)、「木造の設計」(共著・新日本法規)、「木材は環境と健康を守る」(共著・産調出版)、「新建築学体系」(共著・彰国社)等

●委員等

木のまち・木のいえ推進フォーラム代表、木の建築フォーラム代表理事、日本建築センター木質構造審査委員会委員長、住宅金融支援機構技術委員会委員、合板検査会理事、日本森林技術理事、日本木材保存協会理事、日本木材加工技術協会顧問、日本木材社青年団体連合会顧問 等

木材利用を促進する技術開発



スギ等地域材の利用を促進するために、木材の加工・利用技術の開発を進めています。

現在、木材の寸法安定性、変形防止を確保するための人工乾燥処理を施す木材乾燥機の多くが灯油や重油を熱源としています。

そこで新たに、太陽熱などの再生可能な自然エネルギーを組み合わせた木材乾燥装置の開発を行っています。

また、教育・保育施設、地域施設などの公共建築物に木造化が見直される中、一般住宅より長く大きな部材を供給する必要性から、一般流通するスギ製材品を利用した梁トラス構造のマニュアル化を検討しています。

さらに、木質内装化の場合、建物の用途・規模に応じた防火性能が不可欠となっており、低毒性で防火性も付与できるスギ板材の準不燃化処理技術の開発を進めています。



上段：杉トラスの曲げ強度試験

下段：防火性能を確かめるための発熱性試験



木質化されたショールーム内部

ECO・カーステーションK

建設地	島根県雲南市大東町大東984-3、1110-4
建築主	有限会社 オートボデーK
構造	木造2階建(在来軸組構造、組柱・合わせ梁フレーム構造)
用途	自動車販売店舗及び自動車整備工場
建築面積	366.01㎡
延床面積	474.53㎡
建築費	95,000,000円
設計者	村上建築設計事務所
施工者	有限会社 建人
竣工	平成24年7月30日
活用事業	平成23年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 110.00㎡(全体の約96%)
 島根県産板材の使用 660.00㎡



カー用品コーナー

県産中径木を利用した 自動車ショールーム

依頼主の「未来に向けた夢のある建築を」から、地域材を積極的に利用した、全国でも例の少ない木造の“自動車整備工場併設ショールーム”が完成した。木構造に対する耐力・耐火性能などの厳しい基準も4本組柱と合わせ梁工法などを用いることでクリア。エコロジカルで、人にやさしいユニバーサルな店舗づくりをコンセプトに出来上がったショールーム棟は、中大スパン架構の木造化と内部の木質化により、木質感が十分に実感できる“あたたかみ”のある空間に仕上がっている。

- 木材のトレーサビリティ管理を徹底して実施、ウッドマイレージ指標により、流通によるCO₂削減効果も数値化した。仕上げ材には、隠岐産マツ材のフローリング、県内産のスギ、ヒノキを利用している。
- 中大スパン架構は、5.7m×5.5mの平面グリッド構成で、150ミリ角の4本組柱と240ミリ角を中心とした合わせ梁で構成した。
- 筋違いと格子組による耐力壁を組み合わせた壁構造として、耐震性能評価等級3をクリアした。(建築基準法の水平耐力の1.5倍の耐震性確保)
- 当初、木材の燃え代準耐火構造を計画したが、木材含水率の法基準15%を確保する木材の入手が難しく、燃え代準耐火構造の基準を満たす木材サイズの4本組柱と合わせ梁の採用によりクリアして、高い耐火能力も備えている。



スギ材の「合わせ梁」と150角の「4本組柱」
フローリングには隠岐産のマツ材を使用



ショールーム内部



車庫整備棟とショールーム棟全景



柱・梁等を可能な限り見える化した保育室と遊戯室

社会福祉法人 平田保育会 中部保育所

建設地	島根県出雲市東福町420-1
建築主	社会福祉法人 平田保育会
構造	木造平屋建(木造在来軸組構造・和小屋組)
用途	保育所園舎
建築面積	994.66㎡
延床面積	874.70㎡
建築費	230,000,000円
設計者	株式会社 みずほ設計
施工者	昭和開発工業・山本工務店特定建設工事共同企業体
竣工	平成24年3月23日
活用事業	平成23年度森林整備加速化・林業再生事業

島根県産木材の使用 210.90㎡(全体の約88%)



保育室の腰壁には、地元自生のモミの木を使用

木の香り、温かみが心地よい木育空間

この施設は、地域や県産の木材を利用し、まわりの景観に映える来待色瓦の大屋根、壁は杉板の自然素材を使うことが当初より計画された。

建物は敷地上L型配置が適し、保育室は南向きを基本としている。中廊下上部には、春と秋の中間期の自然採光と自然通風環境を維持するための越屋根部分を3箇所設け、広がりのある吹き抜け空間と採光・通風を確保している。

緑と自然豊かな田園地帯に建築されたシンボリックな木造園舎は、地域住民との交流・利用施設としても期待されている。

- 外観は伝統的な木造建築で外壁を杉板としたため、耐久性に配慮し、軒は深く、垂木も大きくした。
- 室内の梁間が大きいため、主要な梁は杉の集成材（国産）を2m間隔に配置、在来軸組構法を基本としている。
- 構造材は主に県産のスギ材を使用、保育・遊室の腰壁には地元自生のモミを使用するなど木造にとことんこだわっている。
- X、Y方向共に筋交い配置、水平荷重は地震時に設計。基礎は30mの杭基礎と地中梁。表層地盤も地盤改良を施し、スラブ床とした。



越屋根からの採光と通風を確保した吹き抜けのある中廊下



来待色の瓦大屋根と杉板貼の外観

中部保育所 / 森山所長の感想

まず一番の特徴は、木の香りがして気持ちが良いことです。1年目を迎えようとする現在でも良い香りがしています。園児達にとっては癒し効果があるのではないかと思います。元気な子供達が転んだり壁にぶつかったりも木だと少し安心です。

ここでは生後2ヶ月の赤ちゃんからお預かりしていますが、中には元気よくハイハイをする赤ちゃんもいて、さぞかし心地が良いと思います。

また、夏には窓を開けていてもひんやりとした場所があることを子供達はよく知っています。

木は乾燥材が使用されているので、木造建築特有の狂いも今のところありません。逆にキズが付いて心配だと言う職員もいますが、キズは付くもので大丈夫だから元気いっぱい遊ぶように言っています。



内装に隠岐産のスギ材を使用したエントランスホール

隠岐広域連合立 隠岐病院

建設地	島根県隠岐郡隠岐の島町城北町355
建築主	隠岐広域連合
構造	本体:RC造5階建(内装の木質化)
用途	医療施設
建築面積	9,497㎡
延床面積	2,403㎡
建築費	3,297,000,000円
設計者	株式会社 梓設計 大阪支社
施工者	株式会社 鴻池組 山陰支店
竣工	平成24年2月28日
活用事業	平成22年度森林整備加速化・林業再生事業

島根県産木材の使用 39.30㎡(全体の約91%)



床に隠岐産のクロマツを使用したリハビリテーション室

隠岐広域連合立 隠岐病院



隠岐島民の医療拠点を 地元木材で木質化



隠岐医療圏域の中核医療機関として、RC造5階建て、115床の隠岐病院が平成23年5月に新しく開院した。普段の生活の中で島民が往き来する、気軽に受診できる病院こそ地域医療を支える“予防治療”の第一歩であると、癒しや安らぎを感じる施設づくりを計画し、院内施設の木質化が図られた。

島民に親しまれている隠岐産のスギ・クロマツは院内の随所に使用され、木の長所を生かした温かみのあるやさしい空間の施設となっている。

今後、地域医療の拠点施設建設のモデルケースともなるであろう。

- エントランスホール、病棟の内装に隠岐産のスギを利用し、温かみのある雰囲気、癒しと安らぎを感じてもらえる空間づくりを図った。
- リハビリテーション室の床に隠岐産クロマツを使用することで、肌触りや快適性の向上のほか、転倒時の衝撃吸収とけがの緩和が期待できる。
- 一般外来患者、入院患者からも木質化された院内は温かみを感じると好評である。



写真上から
エレベーターホール
コミュニケーションコリドー（待合室）の受付



壁・天井に隠岐産のスギ材を使用したコミュニケーションコリドー（連絡通路） 正面玄関



内装・建具に島根県産の杉無垢材を使用した食堂・娯楽室

高齢者福祉施設 あんのんの里 川跡



田園風景に馴染む杉板の腰壁を施した外観

心和む空間、杉無垢の趣き

斐川平野の田園風景に映えるデイサービス、ショートステイ施設として建設された。

木造の長所を生かした、安心、無事、安らかな、お年寄りにやさしい暖かみのある施設は、島根県の「民間木造建築促進事業」を利用することで実現した。県産の杉無垢材が床、腰壁、建具に利用され、心なごみ憩げる施設として利用者にも好評である。

- 木質化された食堂・娯楽スペースは、施設中央南側に配置され、十分な自然採光を確保し、田園風景も一望できる。
- 食堂・娯楽スペースの集成梁に杉板張り、外観の腰壁、軒天化粧には杉板と木質化にこだわりをもった施設である。

建設地	島根県出雲市萩町666-1
建築主	山根 健二
構造	木造平屋建(木造在来軸組構造)
用途	高齢者福祉施設(ショートステイ)
建築面積	803.10㎡
延床面積	766.00㎡
建築費	150,000,000円
設計者	加茂建築設計事務所
施工者	ヒロシ 株式会社
竣工	平成24年10月31日
活用事業	平成24年度民間木造建築促進事業



高齢者福祉施設
あんのんの里 川跡

島根県産木材の使用 92.63㎡(全体の約68%)



腰壁・床仕上げに島根県産の杉無垢材を使用した廊下



集成材による長スパンのトラスが現しの遊戯室

横田幼稚園



杉板貼の外観と赤瓦の屋根

木育を実践する 地域の子育て拠点

元のRC造施設の老朽化により、地元産の杉・桧を使用した木造の施設に建て替えられた。年齢別の保育室の他、小学生の放課後児童クラブ室も設置され、地域の子育て拠点として利用されている。

明るい室内、高い天井、木の温もりが感じられる園舎は、のびのびと保育・教育ができると好評である。

- 大断面集成材による木質二方向ラーメン構造。長スパンの遊戯室にはトラスを併用している。
- ラーメン構造を採用することで、連続した開口部が確保され、十分に採光のある明るい室内となっている。

建設地	島根県仁多郡奥出雲町横田1125
建築主	奥出雲町
構造	木造平屋建 (木質二方向ラーメン構造+木造トラス構造)
用途	保育園園舎
建築面積	1,269.35㎡
延床面積	1,056.60㎡
建築費	421,000,000円
設計者	株式会社 坂本建築設計事務所
施工者	株式会社 安部建設
竣工	平成24年7月3日



島根県産木材の使用 211.90㎡(全体の約72%)



地元産のスギ・ヒノキ材も使用されたランチルーム



ワークくわの木 江津事業所

第20回 島根景観賞(民間建築物部門)優秀賞 受賞

ワークくわの木 江津事業所 / 森のレストラン



森のレストラン

地域とともにある 福祉施設とそのレストラン

この建物は、江津市のシビックセンターゾーンの中心に位置し、障がい者の日常社会活動の場となる通所施設に、市民が気兼ねなく利用のできる「森のレストラン」が併設されている。

運営にあたる福祉法人の理念に謳われている“人としての尊厳にふさわしいサービス”を実践し、ノーマライゼーションの推進を目的に掲げた福祉施設である。障がい者にレストランでの就労の場が創出されることで、地域・市民とともに共存が図られた施設として、地域とともにある福祉施設のモデルとなっている。

- 地元産材料に配慮して計画され、石州瓦の屋根、島根県産ヒノキ材で作られた大型開口部、外部テラス床にも石州瓦タイルなどが使用されている。

建設地	島根県江津市江津町1110-20
建築主	社会福祉法人 いわみ福祉会
構造	木造平屋建
用途	福祉施設・レストラン
建築面積	660.60㎡
延床面積	492.33㎡
建築費	130,000,000円
設計者	中塩和彦建築設計事務所
施工者	株式会社 原工務所
竣工	平成23年4月1日
活用事業	島根県障がい者就労事業



ワークくわの木 江津事業所 / 森のレストラン

島根県産木材の使用 24.00㎡(全体の約35%)



街の景観に馴染む外観(事業所とレストラン)



県産材による漆喰ボードと既存の梁や照明が調和し、歴史的雰囲気を醸し出している

江津地域交流施設 [旧江津郵便局]



鮮やかな赤・緑の色ガラスが美しい

建設地	島根県江津市江津町337
建築主	江津市
構造	木造2階建(内装の木質化)
用途	地域交流施設
建築面積	55.99㎡
延床面積	77.26㎡
建築費	13,000,000円
設計者	江津市・株式会社 尾川建築設計事務所
施工者	永井建設 株式会社
竣工	平成23年3月14日
活用事業	街なみ環境整備事業、森林整備加速化・林業再生事業



明治の面影が漂う洋風建築

明治18年頃建ったといわれる寄棟造妻入棧瓦葺の木造2階建て、擬洋風建築の郵便局舎は、白漆喰壁に鮮やかなライトブルーの独立柱などが現存し、当時の洋風建築様式の雰囲気を醸しだしている。外壁の白漆喰は軒蛇腹にまで塗り込まれ、コーナーストーンを模した装飾も見事に鼠漆喰で施されている。日本の近代建築を支えた「石州左官」の高い技術が随所に見受けられる。改修された局舎は、その竹まいが評価され、国の登録有形文化財にも指定された。

- 木材利用率を高めるため、県産木材による「漆喰ボード」を使用。壁面全体を木質化としている。既存の梁、照明との調和に留意され、歴史的価値を損なわない仕上げとなっている。

島根県産木材の使用 5.26㎡ (全体の100%)



改修工事後の外観

室山農園研修棟 むろやま忠庵

地松梁が圧巻、多目的空間

農業体験・研修、カルチャー、ミニ演奏会など多目的利用を考え、食の杜の隣接地に建てられた伝統の軸組構法を意識した施設である。

今では珍しい檜、桜、栗など多種多様な柱材を使用し、見上げれば大径の地松梁を5段に組み上げられた和小屋組みが重厚感を与えている。

- 真壁に竹小舞組の土壁、檜1.2尺角の大黒柱、杉材の室内建具、杉床板のエゴマ油塗りなど自然素材と木質化へのこだわりが随所に見てとれる。



伝統構法にこだわり建てられた古民家風の外観



重厚感のある小屋組とケヤキの大黒柱

建設地	島根県雲南市木次町寺領2306-24
建築主	室山農園 有限会社
構造	木造平屋建(木造在来軸組構造・和小屋組)
用途	農業体験・研修等多目的施設
建築面積	119.47㎡
延床面積	116.43㎡
建築費	17,010,000円
設計者	都間建築設計事務所
施工者	株式会社 都間土建
竣工	平成24年3月30日
活用事業	平成23年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 39.88㎡(全体の約92%)

株式会社 あいわ

1階 介護予防サービスらぶらぶ / 2階 株式会社あいわ事務所

構造材をあらわした木の味を感じる建物

「しまねの木の家」の方針とルールを採用するとともに、木の持つ視覚的効果や調湿効果を最大限に発揮するため、真壁造りとし、間仕切りを減らし構造材を出来るだけ露出して木造本来の味わいを表現している。木材には地域の杉材が使用されている。木材が露出し開放感のある吹抜けは、木の温もりを感じると利用者に好評である。

- 入居者の変更に伴う維持管理や変更(設備配管・配線等)を、容易にするため厚板張りの木造床組(高床式)が採用されている。



1階はテナント、2階が事務所の併用施設



島根県産のスギ材を主に使用した真壁造り

建設地	島根県松江市竹矢町1801-4
建築主	株式会社 あいわ
構造	木造2階建(木造在来軸組構造)
用途	事務所併設介護施設(デイサービス)
建築面積	112.00㎡
延床面積	141.00㎡
建築費	20,000,000円
設計者	円建創 株式会社 一級建築士事務所
施工者	円建創 株式会社
竣工	平成24年8月11日
活用事業	平成24年度民間木造建築促進事業

島根県産木材の使用 16.15㎡(全体の約76%)

県産木材と木材製品の 供給事業者

県産木材を供給する事業者を紹介します。
このほかにも供給のできる事業者は県内に多数あります。詳しくは、一般社団法人島根県木材協会ホームページ(<http://shimane-mokuzai.jp/>)をご覧ください。

松江

構造材(乾燥材、松・杉)、内装材(松・杉・桧)
土木用材、テーブル/カウンター材

株式会社 こびき屋

代表取締役 安達公一

〒699-0102
島根県松江市東出雲町
下意東1636-1
TEL.0852-52-2233
FAX.0852-52-2234
<http://www.kobiki.co.jp/>
✉ kobiki@kobiki.co.jp



松江

構造材(松・杉・桧)
内装材(松・杉・桧)、土木用材

新東亜工業 株式会社

代表取締役 仲田雅美

〒699-0406
島根県松江市宍道町佐々布216
TEL.0852-66-0336
FAX.0852-66-1097
<http://www.sintoua.jp>
✉ shintoua@ia3.itkeeper.ne.jp



松江

構造材(乾燥地松)、床・壁(杉・桧 実加工品)
薪(薪ストーブ用 広葉樹)

有限会社 野口木材店

代表取締役 野口泰男

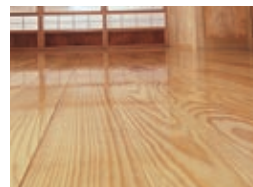
〒690-0021
島根県松江市矢田町250-91
TEL.0852-24-7447
FAX.0852-27-8008
<http://noguchi-mokuzai.com/>
✉ guchi@gaea.ocn.ne.jp



隠岐

構造材(松・杉)
床材(黒松フローリング)

JAS認定工場
隠岐島木材業製材業協同組合
代表理事 池田裕茂
〒685-0027
島根県隠岐郡隠岐の島町
原田奥の原986-6
TEL.08512-2-0189
FAX.08512-2-0124
<http://www.oki-woodhill.com>
✉ mokkyo189@aurora.ocn.ne.jp



松江

公園修景施設
(東屋、木柵、パーゴラ、ベンチ等)

さんもく工業 株式会社 松江事業所

取締役所長 真野 勝久

〒690-0025
島根県松江市八幡町888
TEL.0852-37-0211
FAX.0852-37-0214
<http://www.sanmoku.co.jp>
✉ agou@sanmoku.co.jp



松江

建築材(構造材・造作材・床板・壁板)
土木材(製材・モルダ加工・幅広板加工)

有限会社 中村木材

代表取締役 中村宗良

〒690-0321
島根県松江市鹿島町武代18-1
TEL.0852-82-0052
FAX.0852-82-3006
<http://nakamura-mokuzai.jp/>
✉ nakamura0852@k5.dion.ne.jp



安来

構造材(松・杉)
内装材(松・杉・桧)、土木用材

荒島木材 株式会社

代表取締役 根来川 忠

〒692-0007
島根県安来市荒島町1834-7
TEL.0854-28-8008
FAX.0854-28-8046
✉ aramoku@dojyokko.ne.jp



安来

構造材(松・杉・桧)、内装材、床材
羽目板、土木用材

高木木材 株式会社

代表取締役 高木正夫

〒692-0071
島根県安来市亀島町9-6
TEL.0854・22・2145
FAX.0854・22・2648
✉ takakimokuzai@feel.ocn.ne.jp



安来

構造材(松・杉・桧)、内装材(松・杉・桧 その他)
下地材、土木材、天然・人工乾燥分決め材

有限会社 福本製材所

代表取締役 福本博文

〒692-0404
島根県安来市広瀬町広瀬2136
TEL.0854・32・2130
FAX.0854・32・3324
✉ gassan-lamb.wolf@ezweb.ne.jp



雲南

構造材(松・杉・桧)、内装材(松・杉・桧)
土木用材、その他

飯石森林組合

代表理事組合長 立石 幸

〒690-2701
島根県雲南市掛合町掛合2152番地1
TEL.0854・62・1520
FAX.0854・62・1540
http://ii-mori.jp/
✉ moridukuri@ii-mori.jp



雲南

構造材(松・杉・桧)、内装材(内外造作材全般)
その他(デッキ材)

JAS認定工場
株式会社 田部

代表取締役 田部真孝

〒690-2701
島根県雲南市掛合町掛合2112
TEL.0854・62・0027
FAX.0854・62・1150
http://www.tanabeco.com
✉ tanabetm@i-yume.ne.jp



出雲

間伐材
(円柱加工材、防腐注入材)

出雲地区森林組合

代表理事組合長 手銭白三郎

〒693-0021
島根県出雲市塩冶町967-1
TEL.0853・22・4433
FAX.0853・22・5070
http://www.izurin.jp/
✉ izrinkako@m1.izumo.ne.jp



出雲

構造材(松・杉・桧)
床材・壁材(松・杉・桧)

株式会社 出雲木材市場

代表取締役 三吉庸善

〒693-0022
島根県出雲市上塩冶町890-1
TEL.0853・21・1855
FAX.0853・22・3602
http://www.izumomokuzai.com/
✉ info@izumomokuzai.com

島根県産 木材ストックヤード
島根県産木材を安定的に供給することを目的に、県産木材に特化して集積され、柱梁に使われる角材から床・壁に用いられる板材などが常時揃えられている。



出雲

構造材(杉・桧 他)、床材、羽目板
土木用材、その他

株式会社 板倉重機

代表取締役 今岡和己

【本社】〒693-0056
島根県出雲市江田町268-2
TEL.0853・22・7634 FAX.0853・22・7789
【木材センター】〒693-0033
島根県出雲市知井宮町139
TEL.0853・27・9708 FAX.0853・27・9709
http://www.itkr.jp



出雲

構造材(松・杉)、内装材(杉・桧)
床材、羽目板

株式会社 キムラ

代表取締役 木村 茂

〒699-0505
島根県出雲市斐川町上庄原1280
TEL.0853・72・8266
FAX.0853・72・8267
http://www.woody-kimura.co.jp/
✉ webmaster@woody-kimura.co.jp



出雲

構造材(高温式乾燥、杉)
内装材、床材、羽目板

JAS認定工場

須山木材 株式会社

代表取締役 須山政樹

〒693-0006

鳥根県出雲市白枝町139

TEL.0853・28・0888

FAX.0853・28・1530

<http://www.suyamalumber.co.jp>

✉ info@suyamalumber.co.jp



大田

構造材(松)
内装材(松)

竹下木材 有限会社

代表取締役 竹下三樹夫

〒694-0053

鳥根県大田市鳥井町鳥越413-4

TEL.0854・82・0353

FAX.0854・82・1905

<http://www.takeshitamokuzai.jp>

✉ info@takeshitamokuzai.jp



邑智

構造材(松・杉・桧)
内装材

石見林業 有限会社

代表取締役 横山 一

〒699-4311

鳥根県邑智郡邑南町日貫3035-2

TEL.0855・95・1215

FAX.0855・95・1216



邑智

内・外装材
(杉・桧、各種加工板類)

有限会社 日高林産

代表取締役 日高弘毅

〒696-0221

鳥根県邑智郡邑南町鱒淵1111

TEL.0855・83・0323

FAX.0855・83・0431

✉ rinsan-hidaka@htv.ne.jp



益田

構造材、内装材、床材、羽目板、
焼杉材、土木資材

JAS認定工場

株式会社 佐々木馬一商店

代表取締役 阿知波義雄

〒698-0041

鳥根県益田市高津町7-3-24

TEL.0856・22・3443

FAX.0856・23・5900

✉ umalsan8@juno.ocn.ne.jp



益田

内装材(松・杉・桧)、床材、羽目板
焼杉材、土木用材

鳥根内陸材加工協同組合

代表者理事長 齋藤友紀雄

〒699-5134

鳥根県益田市向横田町口11-1

TEL.0856・25・2995

FAX.0856・25・2996

✉ shimane.info@gmail.com



益田

構造材、羽柄材
造作材

株式会社 益田原木市場

代表取締役 阿知波義雄

〒698-0041

鳥根県益田市高津7-7-16

TEL.0856・22・0697

FAX.0856・22・0008

✉ genboku@sunny.ocn.ne.jp



益田

構造用木材、造作用木材
加工仕上げ木材

株式会社 又賀製材所

代表取締役 又賀 宏

〒698-0043

鳥根県益田市中島町口148

TEL.0856・22・0066

FAX.0856・22・0067

✉ hirosi@iwami.or.jp

